

# 神奈川県西丹沢地域におけるエコツーリズム事業にみる エコツアー実施団体とエコツアーガイドに関する一考察

米津達哉\* 原美登里\*\*

キーワード：西丹沢、エコツーリズム、エコツアー、行政、かながわ山岳ガイド協会、丹沢自然学校

## 1. はじめに

日本では第2次世界大戦以降の高度経済成長や国民所得の増加とともに、余暇時間の増大や交通整備などが相まって、マス・ツーリズムが到来した。その結果、さまざまな地域において観光開発にともなう自然環境破壊や環境汚染が進行し、多くの問題が噴出した。このマス・ツーリズムの到来により生じた諸問題を見直し、新しい形の観光を目指したものがオルタナティブ・ツーリズムであり、これによりグリーン・ツーリズムやアグリ・ツーリズムなどが提唱された(石森, 1997)。それらを受け農林水産省が「グリーンツーリズム～農山漁村で楽しむゆとりある休暇～」事業を打出し、都市住民の農村誘致を図る政策が発表された(寺田, 1994)。

また、1992年に開催された地球サミットにおいて、「持続可能な発展(サステナブル・ディベロップメント)」の方向性が打ち出され、旅行者が生態系や地域文化および自然環境に悪影響を与えず、自然環境に配慮した施設や環境教育が提供され、地域の自然と文化の保護、地域経済に貢献することを目的とした旅行形態であるエコツーリズムが注目されるようになった。このような社会的な要望を受け、1998年にはエコツーリズム推進協議会が設立された。この協議会は個性豊かな日本の地域資源の保全と活用を実現する日本型エコツーリズムの展開を目指している(渡辺, 2002)。さらに、2008年には環境省が主導となり、エコツーリズム推進法が施行された。

日本におけるエコツーリズムに関する研究は、1990年代後半以降、社会学や環境学、生物学、農学などの多岐にわたる分野で行われてきた(例えば下村, 2002; 松本ほか, 2004; 敷田, 2006; 生方, 2006)。地理学においても、人文・自然地理学の両分野からの研究がみられ、敷田編著(2008)はさまざまな地域におけるエコツーリ

ズムの事例をあげた上で、日本におけるエコツーリズムのあり方をまとめた。エコツーリズムの推進が活発になると同時に、多くの地域でエコツアーが実施されるようになった。とりわけ屋久島や知床半島、西表島などでのエコツアーは有名である。山田(2008)は屋久島などのエコツーリズム先進地域の事例と佐世保市の現状を比較した上で今後のエコツーリズムのあり方を示唆し、馬場・森本(2006)はエコツーリズム先進地域である屋久島の来訪者に対するアンケート結果をもとに来訪者の資質をまとめた。これらの研究は、エコツーリズムに伴う問題点と今後の課題について言及した。一方、エコツーリズムは地域振興とも深く結びついており、森(2001)は三重県宮川流域を事例に、ツーリズム計画の展開と地域振興に及ぼす効果について検討を行い、ツーリズムに関わる主体が地域に与える影響を具体的に検討することが重要であると述べている。

これらのエコツアーの実施主体は地域のNPO法人などがあたることが多く、行政の関わり方としては既存の団体を集めた協議会を主導するものが多い(海津・真板, 2004)。しかし、中村(2009)は直接的な行政主導型の神奈川県丹沢におけるエコツーリズムが、従来の行政とエコツアー実施団体との関係ではない新しい形を提案していると述べている。

そこで本研究では、従来のエコツーリズムに関する行政の関わり方ではない、直接的な行政主導型の神奈川県西丹沢地域におけるエコツーリズム事業を対象とし、第一に行政とエコツアー実施団体との関係について整理し、第二にエコツアー実施事業実態についてまとめ、第三にエコツーリズムの直接的な推進者であるエコツアーガイドに関する意識について考察することを目的とした。神奈川県におけるエコツーリズム推進事業を明らかにすることは、他の地域のモデルとなる可能性が高いと考える。

\* エクセル トラベル

\*\* 立正大学地球環境科学部

## 2. 研究・調査方法

西丹沢地域のエコツーリズム事業における行政の取り組みについて、推進事業の主体者である神奈川県自然環境保全センターに聞き取り調査を行った（2009年6月）。さらに、2005～2007年度にかけて神奈川県自然環境保全センターにより取り組まれた丹沢エコツーリズム発信事業についてまとめ、今後の丹沢のエコツーリズムのあり方を考察した吉田（2009）や、推進事業の発端となった「丹沢大山自然再生基本構想」（2006）等の資料をもとにその内容および経緯を整理した。

以上を踏まえた上で、西丹沢エコツアー実施委託事業に選定された実施団体の活動について明らかにするために、設立趣旨や活動内容および委託事業として2008・2009年度に実施したすべてのエコツアーの内容、参加費、実施ガイド、参加者数についての聞き取り調査を行った（2009年6～11月）。なお、筆者らもエコツアーの一部に参加し、その概要をまとめた。

さらに、エコツーリズムを推進していく上でエコツアーガイドの果たす役割が大きいことが示唆されている（瀬戸口ほか、2001；一木・海津、2006）。そこで、前述の実施団体に所属するエコツアーガイド（以下ガイドとする）の傾向分析と、エコツアー実施前後の意識変化などについてのアンケート調査を行った（2009年6月～11月）。

## 3. 西丹沢地域におけるエコツーリズム推進事業実施の背景とその現状

これまで、西丹沢地域におけるエコツーリズム推進事業の全容を網羅された研究はない。そこで、具体的な考察の前に、本研究では神奈川県自然環境保全センターの吉田直哉氏、かながわ山岳ガイド協会の武川俊二氏、丹沢自然学校ガイドの中村洋介氏への聞き取り調査と、神奈川県環境農政部緑政課（2007）、吉田（2009）をもとに、西丹沢地域におけるエコツーリズム推進事業の流れを図1に要約した。以下は図1をもとに述べる。

神奈川の最西端に位置する丹沢山地は丹沢大山国定公園と神奈川県立丹沢大山自然公園に指定されており、神奈川の水源地域でもある自然豊かな地域である（図2）。しかし、近年、ブナやモミ等の立ち枯れや、ニホンジカによる農林業被害の深刻な地域でもある（丹沢大山総合調査実行委員会、2005）。また、丹沢山地は東京から約80km圏内と近く、登山や自然観察に訪れる人は2005年現在約200万人（2000年現在）と多く（山北町、2002）、オーバーユースによる登山道の損傷や植生の退

行などの問題が起こっている（中村、2009）。

これらの自然的・社会的影響の現状把握として1962～1963年、1993～1996年の2回に渡る学術調査が行われ、その結果をもとに「丹沢大山保全計画」が策定された。さらに、2004～2006年にかけて実施された「丹沢大山総合調査」では、500名超の調査団が、丹沢大山の抱える課題を様々な角度から分野横断的に調査を行った。丹沢大山総合調査実行委員会は、調査結果を総合的に解析し、「丹沢大山自然再生基本構想」としてとりまとめ、神奈川県に政策提言した（丹沢大山総合調査実行委員会a、2006）。

神奈川県はこれを踏まえ、2007年から2011年までを事業計画年とした「丹沢大山自然再生事業計画」を2007年に策定した。神奈川県はこの丹沢大山自然再生の推進体制として、丹沢大山自然再生委員会や丹沢大山自然再生推進本部を設置した。さらに本事業計画では、丹沢大山総合調査で明らかになった、「ブナ林の再生」や「人工林の適正管理」、「地域の自立的再生」、「溪流の生態系の再生」、「ニホンジカの保護管理」、「希少種の保護」、「外来種の除去」、「自然公園の適正利用」の8つの特定課題を柱に掲げた（丹沢大山総合調査実行委員会b、2006）。

計画のうち「地域の自立的再生」と「自然公園の適正利用」を目指し、神奈川県はエコツーリズムの推進を掲げた。この課題解決に向けて、神奈川県自然環境保全センターは、2005年から2007年に西丹沢地域（山北町）をモデル地域とし、「丹沢大山エコツーリズム起業促進事業」を実施した（吉田、2009）。これは以下の4つの特徴を有する県提案型協働事業であり、これが他の地域ではみられない独特の行政とエコツアー実施者との関係を形作っている。他の地域では既存の団体を集めた協議会を発足させる形をとることが多い（海津・真板、2004）。しかし、神奈川県では県が考える課題や事業概要を提示し、具体的な事業計画をNPO等から公募する、事業計画の採択は選考委員会で選考する、採択されたNPO等と協議して事業計画を確定し、協定及び委託契約を締結する、事業の終了後、県とNPO等との協働による事業評価を実施する、となっている（丹沢大山総合調査実行委員会b、2006）。

これらの特徴を踏まえ、2008・2009年度を事業期間とした、「西丹沢エコツアー実施委託事業」と「丹沢大山エコツアーガイド育成事業」を広く一般募集した。「西丹沢エコツアー実施委託事業」の条件は2008年7月～2009年1月に、西丹沢での10回以上のエコツアーを実施



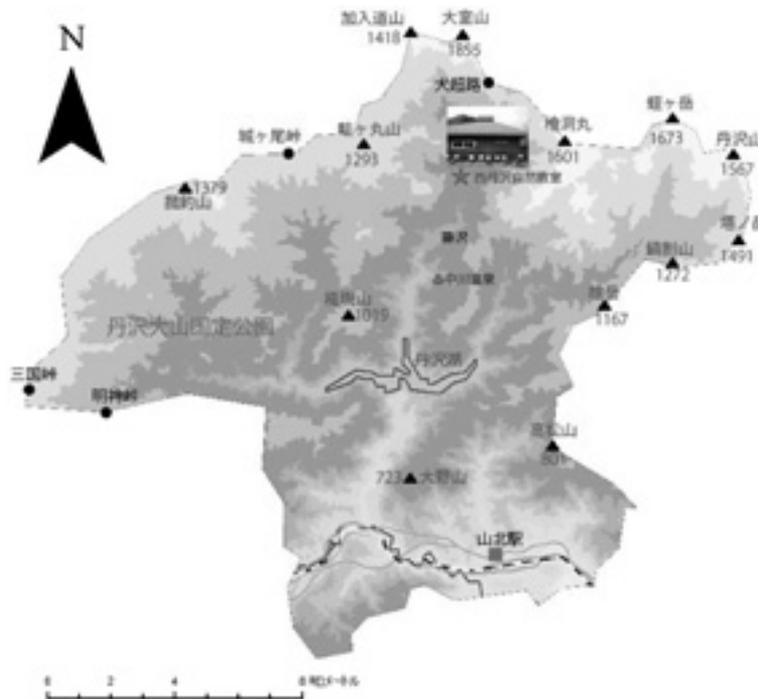


図2 研究対象地域

(数値地図50mメッシュ標高データをもとに作成)

することであり、その委託料の上限は90万円である。

一方、「丹沢大山エコツアーガイド育成事業」は山岳地での安全ガイド技術を学ぶ講座とエコツーリズムの基礎を学ぶ講座を実施することであり、その委託料上限は60万円である。「西丹沢エコツアー実施委託事業」には2団体からの応募があり、丹沢自然学校（見積額90万円）とNPO法人かながわ山岳ガイド協会（見積額50万円）の2団体が2008年6月に選定された。「丹沢大山エコツアーガイド育成事業」の事業には3件の応募があり、NPO法人日本エコツーリズム協会（見積額60万円）へ2008年6月に委託された（2009年6月の聞き取り調査による）。

その結果、NPO法人日本エコツーリズム協会に委託された丹沢エコツーリズム担い手育成講座が、2008年9月～12月の4ヶ月間に受講者24名で実施され、その受講生のうち21名の修了生によって2008年に丹沢自然学校が設立された。丹沢エコツーリズム担い手育成講座についての詳細は吉田（2009）、中村（2009）に述べられており、本研究でも調査は行ったが本稿では割愛する。また、西丹沢エコツアー実施委託事業については次章以降で述べる。なお、神奈川県によるエコツーリズム関連事業は2009年度末で終了し、その後は民間主導でエコツーリズムの推進が行われる予定になっており、県は広報およびガイドのスキルアップ、ガイド認証などの後方支援を担

うのみとなる。

#### 4. かながわ山岳ガイド協会の活動

丹沢エコツーリズム担い手育成講座の講師も務め、かながわ山岳ガイド協会の武川俊二氏へ2009年6月から11月にかけて行った聞き取り調査により次のことが明らかになった。NPO法人かながわ山岳ガイド協会は自然環境保全と登山の安全に関する教育指導者（山岳ガイド、自然ガイド）の育成に関する事業を行うとともに、自然災害時における救難救援活動を支援する事業を行っている。また、神奈川県およびわが国における自然公園の管理・維持の機能を高め、安全登山の普及・発展に寄与し、自然環境保全活動の推進を図ることを目的としている。2006年3月に日本アルパインガイド協会を退会した14人が、かながわ山岳ガイド協会を設立した。2007年7月に特定非営利活動法人（NPO法人）として24名のガイドで運営を開始した。

エコツーリズム推進事業に携わったきっかけやエコツアー実施に向けて今後の取り組みなどについて、武川氏は社団法人日本山岳ガイド協会のガイド養成事業担当として丹沢大山エコツアーガイド育成事業に参画し、その後丹沢エコツーリズム担い手育成講座の講師として参加者を指導していた。その上で、講座修了生の良い見本に

なればと考え、西丹沢エコツアー実施委託事業に応募したとのことである。

かながわ山岳ガイド協会のエコツアーは全て県協働事業ツアーであり、そのため参加料も1000円から2000円と安価である。2008年8月から2009年12月までに15回のエコツアーが企画され、うち13回が実施され、参加者がおらず中止になったツアーは2回であった。ツアータイトルからも分かるように林道ウォーキングや歴史探訪、自然的なものなど多岐にわたっている(表1)。これら13回のエコツアーのうち、すべてのエコツアーは武川氏に

より企画・実施されており、参加者の多い時のみ複数のガイドが同行している。参加者数について回答のあった9回ツアーの合計は85名、もっとも参加者が多かったのは「絶景富士山を眺める 秦野峠林道ウォーキング」の26名であった。

エコツアーの一例として、筆者らが参加した「武田信玄行軍の道 地蔵平のなぞを解く」ツアー(2009年9月27日)を取り上げる(図3)。同ツアーは世附森林鉄道跡をたどりつつ、武田信玄が辿った行軍ルートのみならず、浅瀬入り口から地蔵平

表1 かながわ山岳ガイド協会主催エコツアーの実施年間スケジュール(2008~2009年)

年	月	日	ツアータイトル	ガイド	参加者数	料金
2008	8	23	世附川・国有林を訪ねる 林道ウォーキング	武川氏+4人	9	1,000
2008	9	28	甲斐と結ぶ道 切通峠を越える	中止	-	2,000
2008	10	13	地蔵平のなぞを解く 武田信玄が辿った本当の道	武川氏	4	2,000
2008	10	25	皆瀬川と神明社お峯入り	武川氏	5	2,000
2008	11	8	大野山・古宮のなぞを探る	武川氏	7	1,000
2008	11	22	大野山・隠された三角点のなぞを追う	武川氏	12	1,000
2008	11	23	絶景富士山を眺める 秦野峠林道ウォーキング	武川氏+7人	26	3,000
2008	12	13	都夫良野の山里を歩く	武川氏	9	1,000
2008	12	20	湯本平から神縄の山里歩き	武川氏	7	1,000
2009	9	27	武田信玄行軍の道 地蔵平のなぞを解く	武川氏	6	2,000
2009	10	12	檜岳・ブナの茂る雨山峠から西丹沢を眺める	武川氏	未調査	2,000
2009	11	1	大野山・皆瀬川と神明社 お峯入りと宮古のなぞを探る	武川氏	未調査	2,000
2009	11	29	大野山・山頂にない三角点のなぞを追う	中止	-	2,000
2009	12	5	大野山の山麓、桃源郷 都夫良野の山里を歩く	未調査	未調査	2,000
2009	12	19	大野山の山麓、湯本平から神縄の古道と山里歩き	未調査	未調査	2,000

筆者らが参加したツアー

(聞き取り調査より作成)



図3 武田信玄行軍 地蔵平のなぞを解くツアーのルートマップ  
(現地調査をもとにカシミール3Dに加筆)

を往復する約8時間のコースである。ガイドは樹木の種類や動物の足跡、地蔵平へ向かう途中にある森林鉄道の跡地などについての解説を行う。図3の写真は、地蔵平の地形・地質について解説している様子や、森林鉄道の跡地など、ツアー中に解説された地点を撮影したものである。

## 5. 丹沢自然学校の取り組み

前述の通り、NPO法人丹沢自然学校は、丹沢エコツーリズム担い手育成講座の21名の修了生によって2008年に設立された。丹沢エコツーリズム担い手育成講座についての詳細は吉田（2009）、中村（2009）に述べられているため、本稿では省略する。

本章ではNPO法人丹沢自然学校の取り組みについて、2009年6月から11月に行った神奈川県自然環境保全センターの吉田直哉氏、丹沢自然学校ガイドの中村洋介氏への聞き取り調査をもとにまとめた。NPO法人丹沢自然学校は、丹沢の自然、文化を人々に伝えると共に、丹沢地域に暮らす人々との交流を図り、自然環境および地域

文化の保護・保全に貢献することを目的としたガイド団体である。2006～2007年度にかけて行われた担い手育成講座の修了生21名を中心に、任意団体として丹沢自然学校が設立された。2008年5月からエコツアーが開始され、2009年5月にNPO法人として運営が開始された。丹沢自然学校は、HPやパンフレットの充実など広報活動にも力を入れている。また、月に1度ツアー以外の活動日を設け、他の地域のツアーや研修会などに参加してツアーの進め方を学び、周辺の清掃活動をはじめとした自然環境保全活動を行うなど、エコツアーのための資源探しや情報収集のための活動も行っている（中村・五十嵐、2009）。

丹沢自然学校では、山・沢・里・森をテーマにした4種類のツアーが企画・実施されている。これらのツアーは動植物や地形、地質、歴史、文化などの解説を多く取り入れており、必ずガイドが2名以上付いて行われる。2008年5月～2009年11月に61回のエコツアーが企画され、うち実施された47回のエコツアーの合計参加者は285名である（表2）。もっとも参加者数が多かったのは受託ツアーの「西丹沢統合再生流域を歩く」の34名だが、県

表2 丹沢自然学校エコツアー実施年間スケジュール（2008～2009年）

年	月	日	ツアー主催	ツアータイトル	ガイド番号	参加者数	参加料
2008	5	4	主催	西丹沢森で遊ぼう	6・9・2・7	10	—
2008	5	5	主催	西丹沢森で遊ぼう	6・9・7	4	—
2008	5	31	主催	里地探訪 水と緑の山北を訪ねて	20・13・8	7	—
2008	6	14	主催	初夏の奥丹沢に深緑を求めて（畦ヶ岳）	12・15・1	2	—
2008	7	13	受託	東海道自然歩道を歩く 丹沢湖	1・8	23	—
2008	7	15	受託	東海道自然歩道を歩く 丹沢湖	21・6	21	—
2008	7	26	主催	西丹沢で沢歩き 中止	1・2	-	—
2008	8	2	主催	森で遊ぼう	6・9・20・7	9	—
2008	8	8	主催	西丹沢で沢歩き	1・2	5	—
2008	8	13	主催	西丹沢で沢歩き	11・1	6	—
2008	8	15	主催	森で遊ぼう	6・9・20・7	8	—
2008	8	16	主催	西丹沢で沢歩き	2・18	3	—
2008	9	13	主催	西丹沢で沢歩き	1・2	7	—
2008	9	15	主催	西丹沢で沢歩き	1・2	5	—
2008	10	5	受託	西丹沢統合再生流域を歩く	12・19・15・1・17・2	34	—
2008	10	15	依頼	ガイド依頼ツアー	1・11	20	—
2008	10	18	県協働	里山時間	13・8	12	—
2008	11	3	県協働	美しいブナ林を歩き美しい富士を眺める	12・16	2	—
2008	11	8	県協働	美しい紅葉と水源の森を稜線から仰ぐ 雨天中止	12・15・21	-	—
2008	11	9	県協働	初めての丹沢 - 秋の森ハイク -	7・20・14	4	—
2008	11	15	県協働	秋の紅葉 大滝沢	1・2	7	—
2008	11	24	県協働	森の入口によろこそ 雨天中止	20・6	-	—
2008	12	6	県協働	パークレンジャー 1日体験ツアー	2・1	4	—
2008	12	22	主催	冬の犬越路・富士を望む	12	5	—

年	月	日	ツアー主催	ツアータイトル	ガイド番号	参加者数	参加料
2009	2	10	主催	犬越路 富士を望む	12・15	1	—
2009	2	5	主催	西丹沢氷瀑 雨天中止	12・1	-	—
2009	3	7	主催	西丹沢氷瀑 雨天中止	15・8	-	—
2009	3	15	主催	犬越路ツアー	12・15	1	—
2009	3	20	主催	はじめての西丹沢早春の森ハイク 雨天中止	12・15	-	—
2009	5	28	主催	犬越路ツアー 雨天中止	20・7	-	—
2009	5	9	主催	新緑の犬越路	12	1	—
2009	5	16	主催	はじめての西丹沢 ~新緑の森ハイク~	12・8	1	—
2009	5	30	主催	明神峠から湯船山と不老山を歩く 雨天中止	20・7	-	—
2009	5	30	個人	大山	2・15	2	—
2009	6	31	依頼	畔ヶ丸	2	3	—
2009	6	13	主催	丹沢散歩シリーズ 檜洞丸	12	2	4,000
2009	7	11	主催	丹沢散歩シリーズ 犬越路	12・15	1	3,000
2009	7	25	主催	西丹沢で沢歩き (西沢ツアー) 中止	12・15	-	大5,000・小3,000
2009	7	27	主催	西丹沢で沢歩き 中止	1・2	-	
2009	7	30	主催	西丹沢で沢歩き	1・11	5	
2009	8	8	主催	西丹沢で沢歩き (西沢ツアー)	1・2	9	大5,000・小3,000
2009	8	9	主催	丹沢散歩シリーズ 犬越路	12	2	3,000
2009	8	16	主催	西丹沢で沢歩き (西沢ツアー)	2・11	8	大5,000・小3,000
2009	8	23	主催	西丹沢で沢歩き (モクロボ沢)	1・2	2	大5,000・小3,000
2009	8	29	主催	西丹沢で沢歩き (西沢ツアー) 中止	1・11	-	大5,000・小3,000
2009	9	6	県協働	パークレンジャー 1日体験ツアー	6・8・4	2	2,000
2009	9	6	主催	西丹沢で沢歩き (西沢ツアー)	1・2	3	大5,000・小3,000
2009	9	12	主催	西丹沢で沢歩き (モクロボ沢) 中止	1・24	-	大5,000・小3,000
2009	9	13	主催	西丹沢で沢歩き (西沢ツアー)	1・2	2	大5,000・小3,000
2009	9	20	主催	丹沢散歩シリーズ 檜洞丸	12・15	3	4,000
2009	10	4	主催	初秋の森を歩く	12・2	2	2,000
2009	10	4	県協働	パークレンジャー 1日体験ツアー	20・8・4	3	2,000
2009	10	18	主催	檜洞丸 中止	12	-	4,000
2009	10	18	県協働	里山時間	6・8	4	1,000
2009	11	3	県協働	みんなで社会科ウォーク 郷土かながわを歩く	2・13	2	1,000
2009	11	7	県協働	みんなで社会科ウォーク 郷土かながわを歩く	2・13	6	1,000
2009	11	7	県協働	犬越路	12・1	9	2,000
2009	11	8	県協働	初めての丹沢~紅葉の森を歩く~	20・14	7	2,000
2009	11	14	主催	読図 雨天中止	1・8	-	大4,000・学2,000
2009	11	14	県協働	丹沢ナイト 雨天中止	1・8	-	1,000
2009	11	28	県協働	やまきた発見地学ウォーク	15・2	5	1,000

筆者らが参加したツアー

(聞き取り調査より作成)

大：大人料金 小：小学生以下料金 学：学生料金

協働事業によるツアー中では12名が参加した「里山時間」であった。その他にも旅行会社からの委託ツアーや個人からのガイド依頼ツアーも実施している。参加料金は、県協働ツアーでは1,000円から2,000円と安価なのに対し、丹沢自然学校主催のツアーでは3,000円から5,000円と高価になる。県協働ツアーの平均参加者数は5.2人/回、主催ツアーでは4.2人/回となっており、2009年度では

前者が4.8人/回、後者が3.2人/回と、参加料が高価になると参加者が少なくなる傾向があり、ガイドの昼食代や交通費等を捻出することが難しくなるなどの問題が生じているとのガイドの意見もあった。

ツアーの一例として筆者が9月20日に参加した「檜洞丸ツアー」を紹介する。檜洞丸ツアーは山ツアーの丹沢散歩シリーズの一つで、丹沢自然学校の定番ツアーとなっ



図4 檜洞丸ツアールートマップ  
(現地調査をもとにカシミール3Dに加筆)

ている。このツアーは、自然や景色を眺めながら標高1061mの檜洞丸山頂を目指すもので、「西丹沢自然教室」から「ゴラ沢出合」へと入り、「つつじ新道」を抜けて「檜洞丸山頂」へと向かう往復約6時間のコースである（図4）。ガイドは植物の名前やその由来にはじまり、関東大震災による崩壊地やシカの採食による被害による被害など、さまざまな事柄についての解説を行う。ゴラ沢出合では、丹沢の地形の成り立ちや岩石の種類などについて説明された。午後は、ブナの立ち枯れを観察しながら、クイズを交えつつ、参加者を飽きさせないような工夫がみられた。

## 6. 西丹沢地域におけるエコツアーガイドとその意識

エコツアーガイドや観光ガイドの実態とその意識の両面について研究された例は数少ない。そこで、秋田県八森町における観光ボランティアガイドの実態と動向について、活動組織全体と組織内個人の2つのレベルから分析を行った加藤ほか（2003）と、屋久島のエコツーリズムの担い手であるガイド業者の実態について明らかにした田島（2004）を参考にし、かながわ山岳ガイド協会と丹沢自然学校のガイドに、年齢や職業、ガイド回数などの客観的項目と、ガイド就任以前のエコツーリズムの関わり方や考え方をはじめ、就任以降の考え方や個人的な自然環境問題への取り組み方など、ガイド就任前後の活動意識に関するアンケート調査を行い、ガイド就任前後の自然・環境への意識変化をみた。前述の通り、かなが

わ山岳ガイド協会におけるエコツアーの企画・実施は武川氏が行っているため、武川氏のみを対象とした。丹沢自然学校については21名のガイドに対しアンケートを配布したが、ガイドの活動意識に関する回答を得られたのは10名であった。しかし、回答した10名の合計ガイド回数は全体の82.5%を占め、丹沢自然学校のエコツアーにおける寄与率は高いと考え、有意であると判断した。

武川氏は山岳登山ガイドとしてのキャリアも長く、エコツアーガイド就任前後の大きな意識変化はみられなかった。しかし、里山を中心としたツアーが多く、山岳ガイドとは異なった文化的な意味合いが強いガイド内容になっていると回答した。また、エコツアー参加者に伝えたい内容として、「エコツアーの楽しさ、水・森・生き物などの自然の大切さ」に関する項目の回答が多く、次いで「丹沢の自然環境問題の現状と取り組み」について回答していた。このことから、武川氏の実施しているツアーの意図が感じられる結果となった。さらに、神奈川県のエコツーリズム関連事業の終了後、かながわ山岳ガイド協会の活動の方向性については、「山北町、西丹沢を中心としたエコツアーの方法論もわかってきたので今後も継続して行ってゆきたい。」と回答し、今後のエコツアーへの継続に期待が窺えた。

丹沢自然学校のエコツアーガイド21名中16名の年代・男女の内訳は図5の通りである。30代が10名ともっとも多く、回答を得たガイドの平均年齢は40.9歳であった。職業別割合については、会社員が5名、公務員、教員、アルバイトが2名ずつ、その他は農業従事者や主婦など

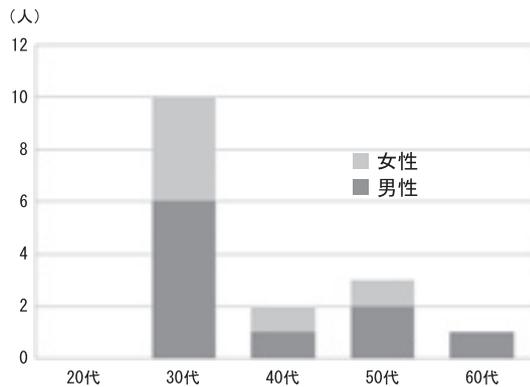


図5 丹沢自然学校エコツアーガイドの男女別・年齢別の割合 (聞き取り調査より作成)

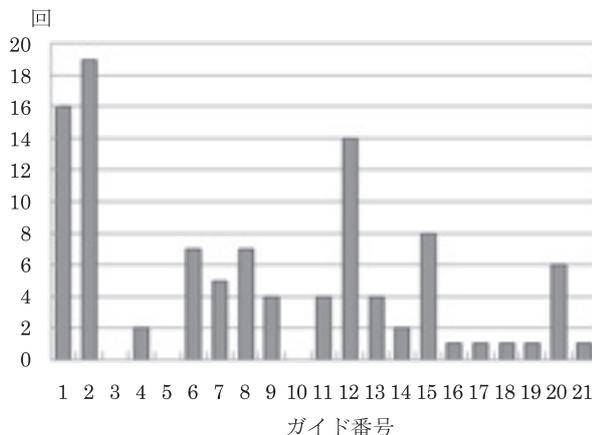


図6 丹沢自然学校におけるエコツアーガイドごとのツアー回数 (聞き取り調査より作成)

さまざまな業種の人々が集まっている。

さらに、表2にはツアーごとの同行ガイド番号を示し、図6ではガイド別同行回数を示した。これより、平均ガイド回数は4.9回/人であり、ガイド回数の多いのはガイド2の19回、ガイド1の16回、ガイド12の14回と続く。一方、ガイドの仕事とは別に本業を持っている人が多いため、0回が3名、1回が5名と、同行回数に偏りがみられた。

ガイドのほとんどが関係者からの誘いを受けて担い手講座を受講しており、受講前に丹沢を訪れたことがなかったのは1名であった。また、丹沢の自然・環境問題についての知識があったと回答した人は10人中9人であった。中でも5名は神奈川県に委嘱された「神奈川県自然公園指導員」であり、県内の自然公園の風致景観保護と適正利用に関して普及活動を行っている。その他の5名も丹沢での清掃活動などのボランティア活動を行っているため、このような回答が得られたと考えられる。担い手講座の受講理由として「自然が好きだから」と回答した人が9名、「丹沢が好きだから」・「自然環境保全に興味があ

ったから」がそれぞれ7名、「エコツーリズム・エコツアーガイド・エコツアーに興味があったから」が5名であり、エコツーリズムよりも自然環境に興味を持った人が多いことが分かった。

また、意識・考えについての質問を複数の項目に分けて行い、全員全項目回答すると100%としてまとめた。たとえば、「今後エコツアーを通して伝えたいこと」では、「水・森・生き物などの自然の大切さ」について、「森の大切さ」「水の大切さ」「生き物の大切さ」「丹沢の大切さ」「丹沢の地形地質・動植物の大切さ」「丹沢の魅力の重要性」の6項目である。

その結果、「水・森・生き物などの自然の大切さ」に関する6項目における選択率が70%と最も高く、「エコツアーや自然と触れる楽しさ」に関する2項目が55%、「地元(山北町)の魅力」に関する2項目が40%、「丹沢の自然環境問題の現状と取り組み」に関する9項目が39%と続き、「丹沢のボランティア活動」「環境に配慮した私生活の見直し」などの回答は30%であったことから、問題点の現状を伝えるよりも参加者の興味を引くような内容が中心になっていることが窺える。また、ガイド就任前後のガイドの意識・行動変化については「変わらない」と回答した1名を除いて、「環境問題について常に意識するようになった」、「他のエコツアーに参加した」がそれぞれ60%、「ゴミの分別やりサイクルを意識するようになった」が40%、自由記述では「自然の仕組み、つながりとその組織なバランス」、「神奈川県の水道水源としての丹沢の環境」、「生態系の不思議さ、南海岸の砂浜の退行の原因と行政の取り組み」について伝えたいなどの回答もみられ、意識の変化が窺えた。最後に今後の丹沢自然学校の活動の方向性について、10名全員に共通する事柄として「より良いツアーを実施し、多くの人々に丹沢地域について知って貰い、丹沢の保全活動につなげたい」との回答がみられた。

一方、今後の課題として、「地域との交流を深めたい」、「関係機関とのつながりを深めたい」など、地域とのつながりを重視する意見が多かった。その他にも「本業との両立の難しさ」や「丹沢自然学校の運営自体」の課題をあげている回答者も少なくなく、問題点もみられた。

## 7. おわりに

直接的な行政主導型の神奈川県西丹沢地域におけるエコツーリズム事業を対象とし、行政とエコツアー実施団体との関係およびエコツアー実施事業実態について整理

し、エコツーリズムの直接的な推進者であるエコツアーガイドに関する意識についての分析の結果、以下の点が明らかになった。

西丹沢地域のエコツーリズムは、丹沢大山自然再生計画の解決策のひとつとして取り組まれ、「丹沢エコツーリズム発信事業」など行政による多くの事業が実施されてきた。このことから、西丹沢地域のエコツーリズムは行政主導型である。

西丹沢地域でのエコツアーは、NPO 法人かながわ山岳ガイド協会と NPO 法人丹沢自然学校の 2 団体によって実施されている。両団体はガイド数やその設立など異なった特徴を持っているが、「丹沢についてより深く理解してほしい」というエコツアーの趣旨は同じである。

丹沢のエコツアーガイドは環境問題に直接触れるのではなく、自然の大切さや楽しさ、地域の魅力を中心に伝えていく傾向がみられた。

行政による丹沢のエコツーリズム推進事業は2009年度で終了し、2010年度以降は民主導で活動していく。ガイドへのアンケート結果で示された通り課題も多いが、活動の発展も期待できる。

筆者らは、丹沢のエコツーリズムは多くの自然環境問題や地域振興、観光振興の重要な役割を担うと考える。エコツーリズムの推進には、地域と行政、ガイド団体が三位一体となって活動していくことが必要不可欠であろう。しかし、丹沢のエコツーリズムでは、ガイドが課題として挙げている通り、地域との結びつきが弱い。これは今後の課題であるが、すでに地域との関わりを強めるための活動が予定されている。2010年に丹沢自然学校によって山北町山麓の篤沢集落でのエコツアーが実施される予定であり、このツアーはものづくり体験や集落の人びととの懇親会などが組み込まれており、地域住民と参加者のより深い交流やさらなるエコツーリズムの発展が期待できる。今後も丹沢のエコツーリズムを継続し、自然環境保全や地域・観光の活性化につなげ、より発展することを期待する。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり神奈川県自然環境保全センターの吉田直哉氏、かながわ山岳ガイド協会の武川俊二氏、丹沢自然学校ガイドの中村洋介氏をはじめ多くのガイドのみなさまにご協力いただきました。また、原ゼミ 5 期生には有益な意見やアドバイスをいただいた。この場を借りて感謝の意を表します。

## 文 献

- 石森秀三 (1997)：観光革命と二〇世紀。石森秀三編『観光の二〇世紀』，ドメス出版，11 - 26。
- 一木重夫・海津ゆりえ (2006)：小笠原諸島におけるエコツアーの満足度の評価に関する研究。小笠原研究年報，29，37 - 51。
- 生方秀紀 (2006)：自然環境と自然体験が調和するエコツーリズムのあり方について(2) 厚岸町の海岸・海上・島嶼における事例研究。釧路論集 北海道教育大学釧路校研究紀要，38，171 - 179。
- 海津ゆりえ・真板昭夫 (2004)：第二世代を迎えた日本型エコツーリズムの課題と展望に関する研究。西山徳明編『文化遺産マネジメントとツーリズムの現状と課題』，国立民族学博物館調査報告，5，211 - 227。
- 加藤麻理子・下村彰男・小野良平・熊谷洋一 (2003)：地域住民による観光ボランティアガイド活動の実態と動向に関する研究。ランドスケープ研究，66 - 5，799 - 802。
- 神奈川県環境農政部緑政課 (2007)：丹沢大山自然再生計画概要版 - 人も自然も生き生き - 。神奈川県，1 - 5。
- 敷田麻実 (2006)：環境と観光 エコツーリズムという言葉。安村克己・遠藤茂樹・寺岡伸悟編『観光社会文化論講義』，81 - 90。
- 敷田麻実編著 (2008)：『地域からのエコツーリズム 観光・交流による持続可能な地域づくり』。学芸出版社，1 - 208。
- 下村彰男 (2002)：社会システムとしてのエコツーリズム。科学，72 - 7，711。
- 瀬戸口真朗・下村彰男・伊藤 弘・小野良平・熊谷洋一 (2004)：屋久島におけるエコツアーガイドの動態とその背景に関する研究。ランドスケープ研究，67 - 5，601 - 604。
- 田島康弘 (2004)：屋久島のエコツーリズム - ガイド業者に対する調査から - 。鹿児島大学教育学部研究紀要 (人文・社会科学編)，55，31 - 47。
- 丹沢大山総合調査実行委員会 (2005)：『アトラス丹沢第一集』，丹沢大山総合調査実行委員会，2 - 15。
- 丹沢大山総合調査実行委員会 a (2006)：『アトラス丹沢第二集』，丹沢大山総合調査実行委員会，4 - 45。
- 丹沢大山総合調査実行委員会 b (2006)：『丹沢大山自然再生基本構想 - 人も自然も生き生き「丹沢再生」』。丹沢大山総合調査実行委員会，8 - 119。
- 寺田明司 (1994)：農村漁村型リゾート時代を迎えて観光対象の考え方 - 都市と農村の交流の現状から - 。地域研究，59，40 - 47。
- 中村洋介 (2009)：丹沢におけるエコツーリズム。地理，54 - 6，54 - 63。
- 中村洋介・五十嵐 聡 (2009)：首都圏近郊の身近な山と里道を歩くエコツアー。地理，54 - 10，74 - 77。
- 馬場 健・森本幸裕 (2006)：エコツーリズム推進地域屋久島における来訪者の資質と課題。環境情報科学論文集，20，159 - 164。
- 松本富美子・田代正一・大西 緝 (2004)：屋久島におけるエ

コツアーガイドの実態と課題. 鹿児島大学農学部学術報告, 54, 15 - 29.  
森 信之 (2001): エコツーリズムと地域振興. 大阪明浄大学紀要, 1, 77 - 90.  
山北町 (2002): 山北の自然. 『山北町史別編』, 山北町, 27 - 293.  
山田千香子 (2008): エコツーリズムの理想と現実、問題点、

これからの展開に向けて 先進地事例と佐世保市の現状と課題 . 長崎県立大学論集, 41 - 4, 195 - 218.  
吉田直哉 (2009): 西丹沢のエコツーリズムの推進. 神奈川県自然環境保全センター報告, 6, 47 - 53.  
渡辺梯二 (2002): 国際エコツーリズム年と国際山岳年. 地理, 47 - 3, 16 - 21.

## A Study of Mechanism on Eco-tourism Enterprise in Tanzawa Area, Kanagawa Prefecture

YONETSU Tatsuya\*, HARA Midori\*\*

\*Excel Travel Co.Ltd.

\*\*Faculty of Geo-environmental Science, Rissho University

Keywords: Tanzawa Area, Ecotourism, Ecotour, Administration,  
Kanagawa Mountain Guides Association, Tanzawa nature school